

月信

GOVERNOR'S
Monthly Letter



Rotary

International
District

2740

VOL. 12

2026.6

2025-26 年度 ガバナー月信



中島 潔 作 「にわか雨」



Rotary


**UNITE
FOR
GOOD**
よいことのために手を取りあおう

2025-26年度 国際ロータリー会長のメッセージ

未来へ^{つむ}紡ごう ロータリーの価値！

2025-26年度 国際ロータリー第2740地区 地区テーマ

Index

Governor's message No.12	1
地区補助金管理セミナー	3
ガバナー補佐 退任挨拶	4
地区委員長 退任挨拶	9
文庫通信	18
会長エレクト・次期幹事ラーニングセミナー 報告	19
R L Iの卒後研修	20
国際青少年交換委員会活動報告	21
第2740地区 職業奉仕委員会新聞	22
規定審議会へ上程する制定案・決議案の募集について	23
2026年3月会員数・出席報告	24
新会員紹介・寄付者紹介	25
からつ勘右衛 (かんね) 話 ・ 編集後記	裏表紙

親睦に始まり親睦を紡いでいく

2025-26年度 ガバナー 石坂 和彦

会員皆様と地区をつなぐガバナー月信が、いよいよ6月号となりました。当月は親睦活動月間です。

最近印象に残った言葉がありました。ミュージシャン大瀧詠一の“幸せの結末”という曲があります。彼の言葉です。

『自分の名前は残らなくていい。この歌が残ってくれば。』

同じくロータリーは、名を残すのではなく、自分の足跡(あしあと)を残すことなのかもしれません。少しだけ考えました。音楽は人の心を表しているんだ。人の心は無限であり、一人ひとりが尊重されるべきものです。だから古代から音楽は続いてきました。人類の歴史が続く限り、その縁は切っても切れないことでしょう。

この2年、“一円融合”を旗印にかかげ、様々な違いをのり越えて、お互いに認め合い、理解し合い、尊敬し合い、協力し合うことを求めてまいりました。ロータリーを未来へ紡いでいただいたロータリアンお一人おひとりのご理解とご尽力に対して、心より感謝申し上げます。

勿論これからもやるべきことが山積みですが、この一年一年の貴重な体験が、これからのロータリーと共に歩む人生に活かされていくことを確信しております。

さて、「親睦」という意味は、互いに親しみ合うこと、仲よくすることだけではありません。決して狎(な)れ合うということでもありません。それは“一円融合”という基盤があつての親睦でなければならないと考えます。このことはロータリーの理念と合致し世界へ広がっていくのだと思います。世界平和への確実な一歩だと考えます。深い意味合いのある言葉、それが「親睦」だと心得ます。

論語に「君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず」というくだりがあります。これは「立派な人は他人と和することができるが、安易に徒党を組むようなことはしない。ところがつまらないものは、群れを好むが、真の調和を気付くことができ



ない。」という意味だそうです。一つになるということも、考え方とその行動で大いに違いがあります。親睦とは、冒頭に述べさせていただいたように、違いを乗り越え、お互いを尊敬しあい、仲よくし楽しむこと。と自らを律し、これからも一歩ずつ親睦の歩みを進めてまいりたいと思います。そのことを教えてくれる、毎日のロータリーです。

この2年間、ガバナーとして地区内すべてのクラブを公式訪問させていただき、多くの貴重なご意見を頂戴いたしました。その中で印象に残っているのは、「もっと地域に役立つ活動を広げたい」「できることを増やしたい」という、皆様の前向きな想いでした。

一方で、その実現のための環境や資源について、様々なご苦労があることも感じてまいりました。地区補助金(DDF)もその一つであり、私たちの活動を支える大切な基盤であると改めて認識しております。

地区補助金は、皆様からお寄せいただくロータリー財団への寄付によって支えられており、その積み重ねが、次の年度の活動の広がりへとつながっていくものでもあります。

ガバナーとしての任期を終えるにあたり、これまでお世話になった地区の皆様へ、どのような形でお返しができるのかを考えました。その中で、今の私自身にできる一つの行動として、ロータリー財団年次基金への寄付をさせていただくことといたしました。これが結果として地区補助金の充実につながり、皆様の活動の一助となれば幸いです。

これは、これまで皆様と共に歩んできた中で感じた想いを、形にしたものに過ぎません。そして、この行動が、これからの地区補助金の活用の広がりにつながればと願っております。

ロータリーの力は、一人ひとりの想いと行動の積み重ねにあります。今後とも、それぞれの立場で無理のない形でご支援をお寄せいただきながら、より良い活動へとつなげていければと願っております。

“ロータリーって素晴らしい!!!”

地区補助金管理セミナー 報告



財団奨学・学友小委員会委員 小嶺嘉浩（島原RC）

次年度2026-27年度の地区補助金事業を対象とした「補助金管理セミナー」が令和8年2月1日(日)の13時30分より東彼杵町総合会館で開催されました。石坂和彦ガバナーや地区役員・委員をはじめ、ほぼすべてのクラブ会長エレクト・次期幹事が一堂に会しました。



ご存じのとおり、このセミナーを受講しなければ地区補助金を受けることはできません。そのためには、地区補助金の申請マニュアルをしっかりと理解しなければなりません。出席者は真剣に話を聞き、メモを取っていました。

冒頭、吉岡義治地区R財団委員長(佐賀南)、石坂和彦ガバナー(大村)からご挨拶をいただき、駒井英樹次年度地区R財団アドバイザー(佐賀南)による「ロータリー財団の役割と補助金」についてのお話がありました。森本大輔財団奨学・学友小委員会委員長(大村)から、次年度地区補助金及びグローバル補助金申請に係る詳細な内容を分かりやすく説明してもらいました。続いて、香月章彦グローバル補助金小委員会委員長(佐世保中央)が申請にあたっての注意事項について具体例を出して提示してくれました。



休憩の後、喜多清基財団奨学・学友小委員会委員長(島原)から、2740地区R財団のこれまでの海外事業実績の報告がありました。欧米だけでなくアフリカやアジアまで多くの奨学生が学びに行っていることがわかりました。また、吉岡地区R財団委員長から、特に危険地区パキスタンにおける活動実績が発表されました。



セミナーの締めくくりは、野口好太郎ポリオプラス委員会委員長(佐世保北)がポリオプラス・ソサエティとロータリーカードについてわかりやすく話してくれました。

総評を中島健太郎ガバナーエレクト(長崎東)からいただいて、今回のセミナーを終了しました。3時間を超えるセミナーでしたが、貴重な日曜日に参加してくれた100名余りのメンバーには有意義な時間だったと思います。わかりやすく丁寧に説明していただいた講演者に感謝申し上げます。次年度も各クラブが会員を増やし、ますます活発なロータリークラブ活動を実践していきましょう。以上、報告を終わります。



ガバナー補佐 退任挨拶

第1グループ ガバナー補佐

古川 眞澄

多久 RC



年度が始まる直前に辻ガバナーエレクトが急逝され後任として石坂ガバナーが急遽再度就任され、RI会長も直前に交代されるという大変な事態から年度が始まりました。第1グループの各クラブへのガバナー公式訪問に同行、地区大会、IMとロータリークラブの3大行事も無事に終わり、あっという間に1年が過ぎたように感じました。前回のガバナー補佐就任時にはコロナの影響でほとんどの活動が制限され不完全燃焼で1年が終わりました。いまにして思えば前回は予行演習だったのではと思っております。石坂ガバナーのように2年連続での活動ではなかったのですが、ガバナーの気力体力には

頭が下がる思いであります。見習うべきところが多く、ロータリーの知識、行動力には自分を顧みてまだまだ遠く及ばないことに羞恥を覚えるとともに、自分の知識の乏しさとロータリアンとしての行動力不足に赤面致しております。今更ながらロータリーを一から学び直さなければと痛感しております。第1グループの各クラブの皆様には快く協力をしていただき心より感謝を申し上げます。会長、幹事様をはじめ会員の皆様のご丁寧なお心遣いには改めてお礼を申し上げます。

ロータリークラブの状況も年々変化しており、会員数の減少等々多くの問題が山積しております。これからのロータリークラブ活動を次の中島健太郎ガバナーエレクト、次期ガバナー補佐の皆様方に頑張ってもらいたいと思っております。私たちも一緒にロータリークラブの未来のために微力ながら協力していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。中島幸利地区幹事様はじめ、各グループのガバナー補佐の皆様、唐津ロータリークラブの皆様には大変お世話になりありがとうございました。心より厚くお礼を申し上げます。今後は一会員として各クラブのご発展と今後の皆様のご活躍をご祈念申し上げ退任の挨拶とさせていただきます。

第2グループ ガバナー補佐

西田 信行

佐賀北 RC



2025-26年度、石坂ガバナーのもと第2グループガバナー補佐として1年間、貴重な体験をさせていただきました。

各クラブ協議会では、クラブ運営、クラブ事業、例会の進行等、参考になることが多く、又ガバナー公式訪問での「ロータリアンと語る会」は、ガバナーと会員が交流できる機会ですので今後も開催してほしいと思いました。

2740地区事業としてインターアクト年次大会(点と線)を開催するにあたり、ガバナー補佐として企画運営より参加し、地区委員の皆様のご協力をおもちゃまして盛況に開催することができました。

3月には第2グループ5クラブ合同で「奉仕の心を紡ぎ広げる～パラスポーツ、そしてロータリーへの相望」をテーマにIMを開催、1部では健常者と障がい者の共生の重要性、2部ではロータリーの歴史を紐解きながら奉仕活動の重要性の講演、引き続き合同懇親会では、他クラブ会員との交流で懇親を深める機会となりました。

事業への参加、奉仕活動をすることにより、「ロータリーの価値」を考える1年間となり、石坂ガバナー、地区幹事、地区委員の皆様、そして第2グループ会長幹事、ロータリー会員皆様の、ご支援ご協力に感謝申し上げます。

ありがとうございました。

第3グループ ガバナー補佐

馬渡 洋三

武雄 RC



ガバナー補佐を拝命してから間もなく一年になります。特に驚いたのは、2025-26年度ガバナー予定者の辻幸徳氏のアメリカ研修を終えた直後の突然のご逝去でした。2024年11月からのガバナー補佐事前研修会議では、大変お元気に地区の方針を語っておられたのに大変残念でなりません。一方、RI会長マリオ・デ・カマルゴ氏は、本人の事情でフランチェスコ・アレッツォ氏へ交代されました。私たち2740地区も心配しましたが、石坂和彦ガバナーの大英断で2年続けて続投を決意され、新年度がスタートしました。

7月8日の鹿島RCのクラブ協議会と15日のガバナー公式訪問を皮切りに、9月11日の太良RCの公式訪問まで、有田RC、大町RC、嬉野RC、武雄RCと6クラブをそれぞれ2回訪問させて頂きました。各クラブ共に規模は違うけれども、地域の特徴を活かした活動を拝見することが出来ました。また訪問時には、会員の皆様方に暖かく迎えて頂き心より感謝申し上げます。

2026年2月には、第3グループのIMを、ガバナー補佐を輩出している武雄RCがホストクラブで、コ・ホストクラブの有田RCと嬉野RCの協力のもと開催致しました。基調講演の講師は、天草市にある曹洞宗大悲山向陽寺住職の渡辺紀生様を迎えて、「ギター和尚のお元気説法」をテーマに、ユーモアを交えながら笑いや元気が出る講話を拝聴しました。その後の懇親会でも、クラブの垣根を超えた会員同士の交流と親睦が図られ、成功裡に終わることが出来ました。

あっという間の一年間でしたが、第3グループの皆様には身近に接して頂き、大変貴重な体験をさせて頂きました。

終わりに、石坂ガバナー、中島地区幹事、第3グループ会員の皆様、そしてホームクラブの新納会長はじめ会員の皆様のご支援ご協力に深く感謝申し上げます。誠に有難うございました。

第4グループ ガバナー補佐

小林 哲

唐津 RC



このたび、2025-26年度国際ロータリー第2740地区、第4グループガバナー補佐としての1年間の任期を無事終了することが出来ました。

およそ2年前、故辻幸徳ガバナーエレクトから第4グループガバナー補佐の要請があり、所属クラブが同じでしたのでYESしか選択がありませんでした。しかし不幸にも昨年2月に急逝され、呆然自失、不安一杯の状況の中、前年度ガバナーの石坂和彦ガバナーが続投を引き受けてくださり、大変有難く感謝感激でした。

一年を振り返りますと、第4グループの各クラブを訪問した際には、アイデア溢れる活動や熱意ある取組に、私自身が大変多く勉強させて頂きました。その中でも、各クラブの会員の皆様方が本当に温かく迎えて下さり、好意と友情を更に深めて頂いたことが、一番の財産だと感じております。

また、インターシティ・ミーティングでは、故辻幸徳ガバナーエレクト並びに石坂ガバナーお二方の、熱い想いを如何に第4グループの皆様へ伝えられるかだいぶ悩みましたが、ロータリーの価値を未来に向けて想いをどう紡ぐことが出来るのか微力ながらお役に立てたのではと思っています。

本年度、地区大会及びインターシティ・ミーティング開催と大変忙しい一年でしたが、第4グループの会員の皆様全員でご支援、ご協力を賜り無事に開催出来ましたことを、心から感謝すると共に厚くお礼申し上げます。

最後に、石坂ガバナー、中島地区幹事そして10グループのガバナー補佐の皆様には温かいご指導と友情で接して頂きまして、深く感謝申し上げます。

一年間本当にありがとうございました。

第5グループ ガバナー補佐

増本 一也

佐世保 RC



今年度第5グループガバナー補佐の佐世保RC所属の増本です。第5グループには佐世保RC・平戸RC・北松浦RC・佐世保西RC・松浦RCの5つのクラブがあります。この一年、各クラブの皆様には訪問時心よりの歓待をして頂き改めて感謝申し上げます。そして前田眞澄ガバナー補佐の第6グループには、佐世保南RC・佐世保東RC・佐世保北RC・佐世保中央RC・佐世保東南RC・ハウステンボス佐世保RCの6つのクラブがあります。2グループ全体では11クラブ約400名の会員数になります。前田ガバナー補佐とは協議の上、合同でのIM開催に致しました。IMの内容についてもこれからの職業奉仕のあり方を見つめ直す機会にしたいと考えました。

そして2026年5月14日(木)に講師としてアライアンス・フォーラム財団の会長、原丈人(はら・じょうじ)先生をお迎えして開催する事になりました。会社は社会の公器、世界中に健康で教育を受けた豊かな中間層を生み出す「公益資本主義」を提唱されている方です。現代社会は「会社は株主のもの」という株主資本主義社会の影響により世界は貧困や格差社会は著しく、ひいては紛争や戦争の火種とさえなっております。これはロータリーの「職業奉仕」の理念とは大きく乖離するものであり、これからの職業奉仕を見つめ直す機会になればと考え企画致しました。原先生は、世界中で活躍され多忙を極められている方ですが、佐世保にお招きできた事は幸運でした。原先生も地方の経営者とお話できる事は、楽しみであり自分達も良い勉強になると言って下さいました。このような機会に経営者としての新たな見識を深め、今後のロータリー活動の展望を拓いていく事は重要だと考えております。

これまで30年余りのロータリーライフですが、佐世保RCの会長や福田金治PGの地区幹事等の貴重な経験を積ませて頂きました。今回のガバナー補佐ですが、自分のロータリーライフの集大成として取り組んでおりました。最後に、各クラブを訪問する中でいつも感じておりました皆様の心優しさと友情に敬意をもってお礼申し上げます。

第6グループ ガバナー補佐

前田 眞澄

佐世保中央 RC



地区事務所よりガバナー補佐退任挨拶の原稿依頼の連絡を受け、もうそういう時期かという思いでした。と言いますのも第5、第6グループガバナー補佐共同主催のインターシティ・ミーティング(IM)を5月に控え、その準備かれこれで慌ただしくしていたせいも有るのかもしれませんが。今回のIMは第5グループ増本一也ガバナー補佐のご提案されました世界的に活躍されていますアライアンス・フォーラム会長 原丈人氏の講演を主とした内容で開催されます。

そのIMが第5、第6グループ、11ロータリークラブの会員の皆様に取りまして有意義な会と成ります事を願いながら、この1年間を振り返ってみて、私の中では、先ずは2年間に渡りガバナーという崇高な使命を全うされました石坂和彦ガバナーに多大なる敬意と労いの気持ちを述べさせて頂きたいと存じます。「大変、お疲れ様

でございました。」そしてご自身が一番大変な中にもガバナー公式訪問では常にお声を掛けて頂き、挨拶の中でも私の名前を挙げて頂きました。「ありがとうございました。」一生の思い出です。

そして、辻幸徳ガバナーエレクトのご逝去という深い悲しみの中で、中島幸利地区幹事はじめ唐津ロータリークラブの皆様、ガバナー事務所の皆様、気丈に振る舞い石坂ガバナーそして第2740地区の為に頑張ってくられた事に頭が下がる思いです。「ご苦勞様でございました。お世話に成りました。」

そして、担当させて頂きました第6グループ(佐世保南RC・佐世保東RC・佐世保北RC・佐世保東南RC・ハウステンボス佐世保RC・佐世保中央RC)の会長・幹事様はじめ会員の皆様、大変お世話に成りました。クラブ協議会ははじめ、数回ご訪問させて頂いた際は、毎回過分なお心遣いを頂きました。それに対してガバナー補佐として皆様にお役に立つ話やアドバイスが果たして出来たのだろうかとお愧れの念が残ります。むしろ6RCの会長・幹事様から夫々のクラブの内情をお聞かせ頂き、今まで夫々のクラブのうわべだけしか見てなかったことに気付かされ、石坂ガバナー並び中島地区幹事さんへクラブ訪問報告書に加え、より正確に、より多くの事を伝えたく「追記書」をご提出させて頂きました。

この1年間で多くのロータリアンの方と知り合え、特に第6グループの5クラブの事をより深く知ることが出来た事で夫々のクラブへの親近感が得られたことは、今後同じグループの中でロータリー活動を行うに当たり、大変貴重な糧に成ると思います。最後にガバナー補佐としての私を支えて頂きました佐世保中央RCの皆様、大変ありがとうございました。無事、その職務を終えようとしています。お世話に成りました全ての方へ「感謝・感謝・感謝」の言葉でご挨拶を締めさせて頂きたいと存じます。

第7グループ ガバナー補佐

喜多 清基

島原 RC



石坂ガバナーのお膝元『第7グループガバナー補佐』としてこの一年緊張感を持って務めて参りました。就任当初は、まずグループ内の各クラブ協議会・ガバナー公式訪問帯同を慌ただしく終えて、地区大会、また多くの地区行事や周年事業にも出席して、あらためてロータリーを総合的に学習させて頂いた貴重な一年となりました。

今年度は、辻幸徳ガバナーエレクトの急逝という、大変悲しい出来事からのスタートでしたが、石坂ガバナーに2年連続で続投して頂き、難局を乗り切ることができました。石坂ガバナーにおかれましては、筆舌に尽くせないご苦労だったであろうと、感謝と尊敬の念でいっぱいです。また遠い唐津の地からガバナーを常に支えられた中島幸利地区幹事にも最大限の敬意を表します。本当にお疲れさまでした。

それから、我々の間では鬼の研修リーダーと呼ばれておりましたが(私自身は神と呼んでいましたが)、地区内10人のガバナー補佐を就任前から厳しくも的確なご指導で鍛え上げて下さいました塚崎パストガバナーにもお礼申し上げます。ありがとうございました。お陰様で、それぞれが各グループでガバナー補佐の職責を立派に果たされたことと確信しております。

最後に、唐津シーサイドホテルで行われた第一回ガバナー補佐研修会で、まだご健在だった辻ガバナーエレクトが懇親会の席で私にお酒を注ぎながら語って下さった言葉を紹介したいと思います。

「喜多さんね！ガバナー補佐はなんにもしなくていいのよ、どこに行ってもよくしてもらって、いばっかりですよ」「ただね、役目柄多くの他クラブを訪問することになりますから、その時にですね、そのクラブの良い所だけを自分のクラブに持ち帰り自分のクラブを立派にしない。それだけでいい！人と付き合う時は相手の良い所だけ観て付き合い、悪い所は観るな！他クラブを訪問して、批判したり指導したりはするもんじゃない、そうしたら嫌われるだけだよ！」……

これが最初で最後の辻ガバナーエレクトから私への生の講義でした。

この時点で、まだまだガバナー補佐の重責を務める覚悟も準備もできていない不安だらけの私にとって、これなら自分でもガバナー補佐ができるかもしれないと少しばかりの自信を持つことが出来た素晴らしい金言となりました。

この一年間、国際ロータリー第2740地区、第7グループガバナー補佐の職責を微力ながら無事終えることができたことを、故辻幸徳ガバナーエレクトにご報告して退任の挨拶と致します。

第8グループ ガバナー補佐

山田 和弘

諫早 RC



ガバナー補佐の任を受けて、2024年11月の唐津での研修からスタートし、2026年5月の地区研修を最後に計6回の研修が行われました。

ロータリー在籍は27年になりますが、在籍クラブ以外の地区での経験が少なかった私は、研修を重ねるにつれ、地区の仕組みや活動についての知識不足を改めて痛感いたしました。

唐津までの距離に不安を感じることもありましたが、回を重ねるうちに新しい情報・知識・仲間が増え、楽しく有意義な研修となりました。

第8グループのクラブ訪問では例会に参加し、その後クラブ協議会に参加させていただきました。在籍クラブと異なるクラブ運営を拝見させていただき、例会の雰囲気もそれぞれ個性があふれ、あたたかく迎えていただき、居心地が良いロータリークラブばかりでした。夜の例会に参加した時には2次会までお招きいただきロータリーの友情が身に沁みました。

また、3月の第7・8グループ開催のIMでは、ホストクラブである諫早ロータリークラブの企画のもと、多くの会員の皆様に参加していただき楽しい有意義な時間であったと感じております。

スタート当初、私はガバナー事務所に訪問クラブの活動内容、概況をお伝えするパイプ役をメインに考えていましたが、訪問後はそれぞれのクラブからロータリーの楽しさ、素晴らしさを教えていただいたことが大きかったと思います。

引き受けた時には「お役に立てるかな」との思いが強かったのですが、振り返ってみればこの1年を通しての出会いや出来事が私の大きな財産になったと思います。

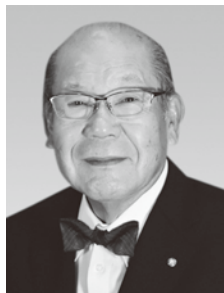
最後になりますが、石坂ガバナー、中島地区幹事をはじめとする運営スタッフの皆様、そして第8グループの会長・幹事、会員の皆様の多大なるご支援に心より感謝申し上げます。

一年間本当にありがとうございました。

第9グループ ガバナー補佐

平山 寿則

長崎西 RC



2025年7月1日のスタートを前に、次期ガバナー補佐として「ガバナー補佐会議」という研修を5回、PELS等も含めて唐津シーサイドホテルへ何度も足を運んだことが、まず頭をよぎりました。

さて、琴海RCが6月30日付で解散いたしましたので、第9グループは5RCでスタートいたしました。ガバナー補佐就任挨拶の訪問や各RCのクラブ協議会への出席に際しては、各RCの思いやりある歓迎を肌で感じることができました。また、ガバナー公式訪問の際には、いろいろとお気遣いいただき、ありがとうございました。

第2740地区の最重要行事である地区大会には、各RCの皆様にご多数ご出席いただきました。残念だったことは、クラブ紹介が交通機関の都合により、福江RC、福江中央RCの皆様がご退席された後になってしまったことです。

年が明けて2月には、長崎北東RCがホストクラブとして開催されたIMを大盛会のうちに終了することができました。長崎北東RCの皆様にご感謝申し上げます。

そろそろゴールが見えてきたところで、6月6日にイアン・マッケイ駐日カナダ大使の特別講演会が開催されます。

振り返ってみますと、重責を担ったという実感はあまりありません。それは、第9グループの各RCの会長・幹事をはじめ、会員の皆様のご協力があったからこそだと思っております。また、所属RCである長崎西RCの会長・幹事、そして会員の皆様の絶大なるご協力とご支援の賜物でもあります。

第9グループのロータリアンの皆様、誠にありがとうございました。

第10グループ ガバナー補佐

中部 省三

長崎北 RC



今年度、石坂和彦ガバナーのもと第10グループガバナー補佐を務めさせていただきました。

第10グループは長崎北、長崎南、長崎東、長崎中央、長崎みなと、長崎出島の6ロータリークラブで構成されていますが、各クラブは28年～69年の歴史に培われた異なった文化を持ち、確固たる独自の活動をされていると感じました。クラブ協議会、ガバナー公式訪問で例会に出席した時の雰囲気はクラブの特徴を表していると思います。

地区大会、インターシティーミーティングにおいても役割を果たすことができ、貴重な経験をさせていただきました。また、第2650地区の地区大会に出席し、多くの他地区ロータリアン、とりわけパストガバナー、ガバナーノミニーの方々と交流できたことも大変意義深いものでした。

地区では公共イメージ委員会(公門委員長)、DX小委員会(原田委員長)を担当させていただきました。委員長の下、各委員が委員会活動に誠実に参画していただいたことに感謝しています。公共イメージ委員会では、エンドポリオプログラムの支援、地区ホームページのリニューアルなどを通じてロータリーのイメージ向上に努めています。また、DX小委員会では、情報共有ツールとしてラインワークスを導入することを決定し、次年度年初よりの運用に向けてセミナーを開催するなど準備を進めています。第2740地区内のコミュニケーション力の向上と情報共有の効率化を期待しています。

2024年11月の唐津でのガバナー補佐会議に始まった1年半は、「ロータリーの価値」を再認識した大変良い時間でした。その中で、第10グループを中心にこれまで以上に多くの仲間・ロータリアンと交流できたことは今後の大きな財産です。

皆様のご支援、ご協力に心より感謝いたします。ありがとうございました。

地区委員長 退任挨拶

RLI 推進委員会委員長

山本 正樹

佐賀南 RC



2025-26年度 国際ロータリー第2740地区 RLI推進委員会の活動を締めくくるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本年度、委員長という重責を拝命し、石坂ガバナーが掲げられた地区運営方針のもと、「未来へ紡ごう ロータリーの価値！」という理念を念頭に、委員会運営に努めてまいりました。RLIは単なる知識の習得にとどまるものではなく、対話と気づきを通じて、会員一人ひとりが主体的にロータリーの理念を深く理解し、それぞれの実践へと昇華させていくための極めて重要な研修であると、改めて強く認識した一年でございました。

本年度は、RLIパートⅠ・Ⅱ・Ⅲをオンラインにて実施し、加えて卒後研修を対面にて開催することができました。ご参加いただいた次年度ガバナー補佐、会長エレクト、次年度幹事の皆様をはじめ、運営に多大なるご尽力を賜りましたファシリテーターの皆様、心より厚く御礼申し上げます。また、卒後研修におきましては、日本 RLIより中村パストガバナーを講師としてお迎えし、格別なるご指導を賜りましたことは、地区にとりまして誠に貴重な学びであり、大きな財産となりました。

とりわけ卒後研修では、地区リーダーの皆様による実践的なファシリテーションを通じ、「学びを行動へとつなげる」という RLIの本質を体現する場となりました。こうした積み重ねが、地区全体の組織力の向上、ひいては各クラブのさらなる活性化へと結実していくものと確信いたしております。

結びに、RLIの学びが各クラブにおいて着実に実践され、会員増強およびクラブの持続的発展へとつながることを心より祈念申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。一年間、誠にありがとうございました。

クラブ管理運営
会員増強 委員会委員長

久保 泰正

諫早西 RC



本年度、地区クラブ管理運営・会員増強委員会の活動に際しまして、各クラブ会長・幹事の皆様をはじめ、関係各位より多大なるご理解とご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

振り返りますと、本年度は委員会として大きな事業や新規の取り組みを十分に実施できたとは言い難く、会員の皆様のご期待に沿えたかにつきましては、忸怩たる思いもごございます。しかしながら、その一方で、次年度以降の活動をより実効性あるものとするための準備期間として、委員会内での協議や方向性の整理、関係各位との連携強化に努めてまいりました。

ロータリーを取り巻く環境やクラブ運営の課題が変化する中、地区委員会に求められる役割もまた、従来以上に「支援」と「伴走」に重きが置かれているものと感じております。そのためにも、現場の声に耳を傾けながら、各クラブにとって少しでも有益な情報提供や支援につながる活動を進めてまいりたいと考えております。

幸いにも、次年度も引き続き委員長を務めさせていただくこととなりました。本年度に十分果たし得なかった部分を踏まえ、次年度はより具体的かつ実践的な取り組みへとつなげてまいりたいと存じます。その実現のためには、地区役員の皆様、各クラブの皆様のお力添えが不可欠でございます。

今後とも変わらぬご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、クラブ活動のさらなる発展と皆様のご健勝をご祈念申し上げ、御礼の挨拶とさせていただきます。

衛星クラブ小委員会委員長

渡会 祐二

佐世保北 RC



今年度、第2740地区の衛星クラブ小委員会委員長を務めさせていただきました佐世保北ロータリークラブの渡会(わたらい)と申します。本年度の最後を迎えるにあたり、ご挨拶申し上げます。

この一年間、地区内の各クラブ、そして衛星クラブの会員の皆様に多大なるご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。私にとって、この一年は、「ロータリーの多様性と未来」を感じる貴重な時間となりました。衛星クラブは、既存の枠に捉われない柔軟な活動が最大の特徴です。通常の例会スタイルでは参加が難しい方が、オンライン等も活用して効率的に集い、それでいてロータリーの精神を深く共有する姿に、多くの刺激を受けました。

石坂ガバナーは、今年度の運営方針の中で「ロータリーの輪を広げよう！」を掲げられ、その一つに「衛星クラブの設立と活動」をあげられました。その方針に基づき、昨年度の「長崎みなど Down To Earthロータリー衛星クラブ」に続き、今年度、石坂ガバナーの所属される大村ロータリークラブを提唱クラブとして「大村 Great Peace Stonesロータリー衛星クラブ」が設立されましたことは、大きな喜びです。大村ロータリークラブの皆様をはじめ、関係者の皆様には心よりお祝いとお礼を申し上げます。

衛星クラブにおいては、まだまだ運営における課題や試行錯誤もあると思いますが、それ以上に「新しい仲間が増える喜び」や「若い世代の斬新な奉仕のアイデア」に触れることができたのは、委員長冥利に尽きる経験でした。今年度は終わりとなりますが、本地区における衛星クラブの可能性は、まだこれからだと思います。今後も、衛星クラブがより輝き、提唱クラブと共に力強く発展していくことを切に願っております。

最後になりますが、共に活動していただいた委員会メンバー、並びに石坂ガバナーをはじめとする地区役員の皆様に深く御礼申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。一年間、本当にありがとうございました。

公共イメージ委員会委員長

公門 新治

佐世保北 RC



今年度、公共イメージ委員長を務めさせていただきました、佐世保北ロータリークラブの公門です。無事に一年間の職務を全うできたのは、石坂ガバナーをはじめ、地区の会員の皆様の温かいご理解とご協力があったからこそと、心より感謝申し上げます。

私は本委員会の立ち上げ当初から8年間携わってまいりましたが、委員長としての最後の年となる今期は、特に「行動」を可視化することに注力いたしました。ロータリーの公共イメージとは、単なる認知度ではなく、私たちの活動が地域に与える「インパクト」そのものです。地区ホームページを活用し、私たちの「世界を変える行動人」としての姿を発信してまいりました。

特にDX小委員会との連携による情報発信の強化や、ポリオプラス委員会とのポリオデーにおけるイベント協力などは、他部門や地区チームとの結束があって初めて形になったものです。公共イメージ委員会は、皆様の素晴らしい活動という「素材」があって初めて機能する組織です。各委員会の皆様から寄せられた多くの資料や事例は、まさにこの第2740地区の誇りであり、ブランドそのものでした。

8年という月日は私にとって大きな財産です。委員長の職は退きますが、これからもロータリアンとして、ロータリーの価値を正しく伝え、地域に際立った存在であり続けるための支援をしていきたいと考えております。

一年間、本当にありがとうございました。

DX 小委員会委員長

原田 徹

雲仙 諫早南 RC



皆様こんにちは。DX小委員会 委員長 原田 徹です。

本委員会は昨年度新設された小委員会で、地区におけるロータリーのDX（デジタルトランスフォーメーション）推進を目的に活動しております。

2年目の本年度は各方面にアンケートを実施させていただき、たくさんのご回答を賜りました。皆様のご協力に心から感謝いたします。このアンケート結果を踏まえて、次年度の活動方針を策定でき、更に、本年度中に次年度に向けてのDX推進セミナーが開催できたことは大きな成果だったと思います。

次年度も引き続きDX小委員会の委員長を拜命予定でございます。3年目は地区の情報共有基盤として導入した LINE WORKSの試験運用を実施し、本運用に向けてガイドライン化や地区のシステム全体のブラッシュアップなどを重点項目として活動いたします。

地区の公式WEBサイトも並行して改善していきます。クラブ活性化、会員増強、各種奉仕活動にも使えるツールやプラットフォームとして活用促進を図っていく方針です。

また、次年度は公共イメージ委員会の委員長も兼任させていただき予定でございます。他の地区委員会と連携しての事業も計画しております。第2740地区全体の公共イメージ向上とDX推進の両面から、より良い方向性を見出せるよう微力を尽くします。

ご意見やご提言がございましたら、お声がけください。

地区運営及びクラブ運営が効率化され、皆様のロータリー活動をより多く下支えできる委員会にしていきたいと考えておりますので、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

職業奉仕委員会委員長

矢野 京子

諫早北 RC



日頃より地区委員会活動へ多大なるご協力を賜りありがとうございます。

この度、委員長を退任する事になりました。

たくさんの方へ卓話で廻らせていただきお世話になりました。

各クラブでいろいろな形で職業奉仕を伝えている様子を伺うことができ大変嬉しかったです。

今年度最後の事業としていよいよ6月6日に特別講演会を開催致します。

駐日カナダ大使イアン・マッケイさんはロータリーのプログラムであります青少年交換留学で、初めて来日され10か月間のホームステイをされました。その時の下関西クラブによる手厚い対応に感銘を受け日本に好感を持って下さるようになりました。現在、大使として日本に貢献して下さる立場から日本人の心の奉仕を伝えてくださる事でしょう。私達が学び取れるものがたくさんあります。気づきを与えて下さると思います。ロータリークラブがどのような奉仕をしているのか、様々な角度からご紹介をしていく、盛りだくさんの内容が詰め込まれた講演会です。是非、ご家族にも社員様にもたくさんのご友人にも聴いていただくと幸いです。たくさんの方とロータリーを共有してください。2740地区からロータリーの素晴らしさを広めていきたいと思っております。皆さんのご参加をお待ちしております。

駐日カナダ大使 イアン・マッケイ氏 特別講演会 「希望を紡ぐ、ロータリーの輪」

【すべてはロータリーから始まった】6月6日(土曜日) 13:30～ 諫早文化会館 大ホール

社会奉仕委員会委員長

高比良 耕一

佐世保東南 RC



この度は私事ではございますが、令和8年6月30日をもちまして地区社会奉仕委員長を退任する事となりました。期間は2024～26年度の2年間と、本来地区委員長任期の3年間には1年少なくなりましたが、地区社会奉仕委員長を退く事になりました。

この2年間と言うのは、2期連続で石坂和彦ガバナーの年度で有りまして、私も含めて大変貴重な経験をさせていただき、色々な面で2年間の地区での信頼関係等の深まりがより強く感じられ、感謝の気持ちで一杯で有ります。思い起こせば、初めての地区委員長の大役を引き受けました1年目、凄く緊張しながらも気合いを入れて挑みました。コロナ禍終息以来では、久しぶりの社会奉仕委員会セミナー開催。それに沢山のロータリアンに参加いただき、いま社会問題のひとつであります部活動地域移行問題に対し、中学生部活動のこれからを皆さまに周知して貰い、ロータリアンとしてどう奉仕に変えて行けるかを一緒に考えて貰えたセミナー、これは誇りに思っています。

2年目では、ひとり親家庭支援に目を向けて、地域のこども食堂等に積極的に関わりを持ち、各クラブ様へはこども食堂の現状を把握して貰い、また、たくさんの各クラブ様には、こども食堂ネットワーク等への温かいご寄付や寄贈へ奉仕活動に動いて貰い、関係者等のボランティアの皆さまにロータリーを知って貰い、感謝のお言葉を貰い、少しずつでも継続的な支援として地域に還元されて行く物だと確信しました。これもひとえに2740地区全てのロータリアンが、あらゆる奉仕事業に対して日本人が世界に誇る人の優しさ、また文化的価値観が素晴らしい人種で有る事がまさに垣間見られました。

これからもロータリアン皆さまの温かいご支援をお願い致しまして、簡単ではございますが退任挨拶とさせていただきます。尚、後任は緒方大輔君(佐世保東RC)が担当いたします。私同様かわらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。国際ロータリー第2740地区皆様の、今後のご健勝とご発展を心よりご祈念申し上げます。

ロータリーファミリー委員会委員長

徳川 清隆

唐津 RC



今年度、「ロータリーファミリー委員会」の委員長を退任するにあたりご挨拶を申し上げます。

ロータリーファミリー委員会は、ロータリー奉仕プロジェクトの青少年奉仕部門『インターアクト委員会』『ロータアクト委員会』『国際青少年交換委員会』『RYLA委員会』の4委員会構成を柱に、それぞれのプロジェクトが実施される際、委員会の横連携が可能となるよう支援し、その青少年奉仕活動のプロジェクトが幅広となるよう支援する役割を持った委員会の活動となります。

当委員会では、ロータリー活動への知見が豊富な方々と、何よりも青少年奉仕に深い理解を持たれる委員のご協力により委員会運営を行うことが出来ました。

昨年、10月に開催された地区大会の折「ロータリーファミリーの集い」を立案し、各委員会の複合的な事業として企画・運営をするものでした。

青少年が共に学び合う場として行った内容は、司会や会場運営の中心はインターアクターやRYLAリアンであり、お互いが楽しく運営でき、お互いの成長の場として取組んでもらえるよう企画をし、無事終わることができました。

また、この事業において委員会が注視した点は、それぞれのプロジェクトに参加した若い方々(青少年)へロータリーの奉仕理念を理解して頂き共感が持てるような機会と場をすることで、ロータリアンとの交流や親睦ができ、ロータリーが期待する次世代リーダーの育成に繋げていくことでした。参加された若い方々(青少年)が、リーダーシップの向上、同世代との交流による友情を育んでもらいながら、ロータリーの奉仕理念を素直に感じてもらえるよう、その学び場としての役割も添えました。これは、ロータリアンと若い方々(青少年)がロータリーファミリーの一員であると受け止めてもらい、互いに理解し尊重し合いながら、ロータリーの奉仕と理念を未来に繋ぎ合わせていけるような機会になったと思います。

最後に、委員会活動はその役割と使命を持ち、ロータリーの青少年奉仕活動、並びに地区の更なる発展に微力ながらも寄与できるよう努力できたと思います。これまでに関係された皆様方のご協力と厚いご支援に深謝し、委員長退任挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

ローターアクト委員会委員長

大串 龍大

長崎北 RC



2025-26年度第2740地区ローターアクト地区委員長を務めさせていただき誠にありがとうございました。

2740地区ロータリークラブの皆様におかれましては、日頃よりローターアクトへの深いご理解と多大なるご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。

委員長という役を経験させていただき、地区の取組や他委員会さんとの関わり方、各種セミナーにも参加させていただき非常に貴重な経験となりました。

ローターアクトについては、1年を通して会員減少、クラブ数の減少等マイナスな事が多かったと思います。

ただプラスな面もみえてきた事もあります。例えば、鎮西ジャズアンサンブルローターアクトのサポートを諫早地区の4ロータリークラブで支えてくださっている試みは、今後のローターアクトの在り方、普及していく未来の形として私自身大変参考にさせていただき事例だと感じております。

何もできなかった1年だと思いましたが、今後の課題は明白になった1年だと捉えております。

次年度もローターアクト委員長を務めさせていただきますが、ローターアクトの活動を持続可能な事業として2740地区ロータリークラブの皆様には、さらなるご理解とご支援を賜り、ローターアクト同様私自身も成長していきたいと思っております。

インターアクト委員会委員長

川島 雄輔

唐津 RC



一昨年から3年にわたり地区インターアクト委員会の委員長を務めさせていただき、年度の終わりにあたりましてご挨拶申し上げます。

今年度冒頭のご挨拶においては「クラブの幹事職と兼任にはなるものの、それを言い訳にしないよう、精力的に活動できる1年にしたいと考えております」とお話ししておりましたが、実際にはなかなか思うようにはいかず、やはり反省の残る1年となってしまいました。

具体的に振り返ってみますと、3年目ともなり、インターアクト年次大会への地区委員会としての関わり(優秀インターアクトクラブ表彰を引き受け、エントリー受け付けから、選考、発表までを行う)は、おおよそ形ができてきたかと思っております。

他方で、前期後期の指導者研修については、まだまだ試行錯誤が続いています。年間での回数や実施方法、その内容など、どのようにしていけばより地区内のインターアクトクラブの活動に資し、時間や労力、経済面での負担を減らせるかは次年度にも持ち越して考えていきます。検討に当たっては、インターアクトクラブや提唱クラブはもちろんのこと、インターアクトクラブの活動に関与し、また関心を寄せていただいている皆様にご意見をいただくことが必須となります。是非ともご協力いただけますようお願いいたします。

全国インターアクト研究会に参加させていただき、そこで学んだことも、まだまだ十分に地区に還元できていません。これもどうか方法を見つけていきたいと思っています。

そして次年度も地区インターアクト委員会の委員長を拝命しております。

4年目を任せただけのことは、ありがたいことだと思ふ反面、後任の育成が不十分な結果であることも痛感しております。地区委員長の人員の固定化の問題は、研修の中でガバナーエレクトから指摘があったところです。次年度はこの点も意識して、活動を考えていきたいと考えています。

ともあれ一つの区切りとして、いったん締めめの挨拶をさせていただきます。1年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。また次年度も、何卒よろしく願いいたします。

RYLA 委員会委員長

太田 陽子

大村 RC



今年度 R Y L A 委員長としての任期を終えるにあたり一言ご挨拶申し上げます。

在任中は、多くの皆様より温かいご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

今年度の R Y L A は、開催が年度末ぎりぎりとなり、また委員会の開催も十分に行えないなど、運営面で課題を残す一年となりました。しかし、そのような状況の中でも、多くの方々にお力添えをいただき、無事に実施できる運びとなった事に大変ありがたく感じております。今年は今までと違った内容での事業を開催したいと思っております。

また、この事業が今後の R Y L A のさらなる発展につながることを願っております。

なお、次年度も引き続き委員長を務めさせていただくこととなりました。今年度の反省を活かし、より計画的で充実した運営に努めて参りますので引き続きご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、改めて皆様のご支援に深く感謝申し上げます、退任の挨拶とさせていただきます。

誠にありがとうございました。

国際青少年交換委員会委員長

徳永 隆信

有田 RC



このたび、2025-26年度国際青少年交換委員会委員長としての任期の節目を迎えるにあたり、ご挨拶申し上げます。

この一年を振り返りますと、青少年交換という未来を担う若者たちの成長を支える尊い活動の中で、多くの学びと気づきをいただいた一年でありました。候補生、派遣生、受入学生、ホストファミリー、ホストクラブ、学校関係者、そして地区役員・委員の皆様のご理解とご協力があったからこそ、委員会活動を前へ進めることができましたこと、心より感謝申し上げます。

本年度は、従来の運営に加え、青少年保護、情報共有の在り方、意思決定の透明性など、組織運営の根幹に関わる課題とも真摯に向き合う機会となりました。時に困難な判断を求められる場面もありましたが、常に「学生の安全と成長を最優先に」という原点を見失うことなく、一つひとつ向き合っていました。

また、その過程において、多くの諸先輩方から厳しくも温かいご指導をいただき、組織とは何か、ガバナンスとは何か、そしてロータリーの本質とは何かを改めて深く学ばせていただきました。

一部では、委員会の在り方や今後の体制について様々なご意見をいただく場面もございましたが、それらもすべて、より良い地区運営と青少年交換プログラムの発展を願う思いからであると受け止めております。

おかげさまで、次年度に向けた体制整備にも一定の道筋が見え始めております。私自身も引き続き責任を持って学生たちの成長を見届けるとともに、より開かれた委員会運営、より透明性の高い情報共有、そして次世代が誇りを持って参加できる青少年交換プログラムの構築に挑戦してまいります。

これまで賜りましたご支援、ご指導、ご叱咤に心より感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます、退任の挨拶とさせていただきます。

ロータリー財団委員会委員長

吉岡 義治

佐賀南 RC



この1年間、2025-26年度地区重点事業として、『行動しよう！ポリオ根絶！』という事で活動して参りました。

去年1月末に、「国際奉仕における行動グループでの活動」に個人で参加してきました。10日間のパキスタン現地での「ポリオワクチン接種活動」への参加でしたが、今まで経験してきたグローバル補助金での奉仕活動とは、かけ離れた過酷な現実を体験しました。帰国の途についた時、財団委員長として何をするのかは自ずと決まっていた。ポリオ根絶まで後わずかと言われてはいますが、困難な国が最後まで残りました。何故なのか、少しでも多くの方に、この現状を知って欲しい。そうすることで、より多くのロータリアンに「ポリオキャンペーンへの共感」を持って頂けるであろうと、財団セミナーやIM、また11のクラブで卓話や講演をさせて頂きました。

また『より平和な世界を紡ぐために！』につきましては、去年4月にWHO・RIより第2740地区に「ポリオ対策リソースセンター3か所設置」の依頼がきておりましたが、パキスタンではこの1年の間に2度の紛争があり、その都度グローバル補助金申請計画が頓挫してしまいました。石坂ガバナーからの力強い後押しもあり、今よりも可能性を広げられるよう、第2690地区など多くの地区と合同でのグローバル補助金活動として進めています。近年中に実現できたらと願っております。

ロータリー財団は、多くの点で目に見えない存在ですが、ロータリーの奉仕の土台です。地区補助金事業を、もっとクラブの活性化に利用して頂くためにも、わかりやすいセミナーを心がけたいと思っています。

今後も、わかりやすく開かれた財団を念頭に置いて、皆さんのクラブのお役に立てて頂けるよう努めて参ります。

補助金委員会委員長

西川 義文

大村 RC



補助金委員会では、次の3つの小委員会が配置され、各小委員会ごとに与えられた活動を行いました。

① 財団奨学・学友小委員会

委員長の森本大輔君(大村RC)を中心に、ロータリー財団の7つの重点項目に沿った奉仕活動のためにグローバル補助金を使っての奨学生選考を行い、2025年秋よりポルトガルのリスボン大学院へ高尾由香さん、イギリスのロンドン大学医学部修士課程へ清水真澄さん、岸川代世さんがイギリスのサセックス大学院の紛争解決コースへ留学しました。世界的な物価高と日本の円安の影響で為替相場が極端な円安で、海外での学びや生活に、大きく不利に働いています。2024-25年度よりグローバル補助

金を30,000ドルから40,000ドルとし、財政支援の強化を図っていますが、それ以上に現地での生活費等が物価高騰と円安の影響で厳しい生活を強いられているようです。

② グローバル補助金・平和フェロー小委員会

委員長の香月章彦君(佐世保中央RC)を中心に、各クラブからのグローバル補助金の申請や承認された補助金事業の報告書送付という終結までをTRFの指導に基づき対応しています。今年度は佐世保北RCがグローバル補助金にてフィリピン農村地区の農業経営近代化と所得向上をソーラー発電システムにて、農水道改善事業を執行されました。また地区補助金を使っての海外地区クラブとのグローバル補助金事業事前調査事業への支援も行っています。

③ 地区補助金小委員会

委員長の堀剛君(諫早RC)を中心に、各クラブが行う地区補助金を使っての奉仕事業をTRFへ申請し、完了を報告するまでの間の支援や多様多様なクラブからの対応に精一杯協働して、各クラブが行う地区補助金を利用しての奉仕活動を地区委員会として協力して行いました。今年度地区内23クラブへ地区補助金として529万円を配分させて頂きました。

皆様からの貴重な年次寄付や特定寄付を第2740地区で有効に使えるような活動が出来て幸いです。ロータリー財団への寄付を地元地域を含む世界中で困っている人々のために有効に使われますことを補助金委員会として幸いに感じています。第2740地区補助金委員会活動に感謝申し上げます、退任の挨拶といたします。

補助金委員会 地区補助金小委員会委員長

堀 剛

諫早 RC

国際ロータリー第2740地区の皆様におかれましては、日頃よりロータリー活動にご尽力を賜り、心より敬意と感謝を申し上げます。地区補助金小委員会の委員長を務めてまいりました堀剛でございます。

地区補助金小委員会委員長として、ご挨拶申し上げます。昨年度は前任者のもとで地区補助金の運営について学び、制度の趣旨や実務への理解を深めてまいりました。また、主体的な委員会運営に努めるとともに、各クラブの皆様のご理解とご協力のもと、補助金事業を通じた地区の奉仕活動の推進に取り組みました。

地区補助金は、地域社会の課題に向き合い、「超我の奉仕」を具現化する重要な仕組みであり、その役割は今後ますます重要性を増すものと考えております。社会情勢の変化に伴い多様化・複雑化するニーズに応えるためには、公正かつ透明性のある運営と、各クラブの創意工夫を活かした取り組みが不可欠であります。

なお、本稿をもって一区切りのご挨拶とさせていただきますが、今後も地区補助金の円滑な運営と発展に向けて尽力してまいり所存でございます。

結びに、国際ロータリー第2740地区のさらなる発展と、皆様のご健勝ならびにご活躍を心より祈念申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。

資金推進委員会委員長

吉井 正司

唐津西 RC



2025-26年度地区が設定した寄付額は一人当たり年間ロータリー財団へ150ドル、ポリオプラス基金へ30ドル、米山記念奨学会へ16,000円でしたが、3月末現在、前年度同月比80%で遅延を心配しています。年度末には達成出来る様お願い致します。

この一年間たいした役も立てずに過ごしてしまった事を申し訳なく思っています。資金推進委員長を退任するにあたり、最後の仕事として財団に寄付して任を終わりたいと思います。

財団の悲願であるポリオ根絶をご祈念致しております。ありがとうございました。

ポリオプラス委員会委員長

野口 好太郎

佐世保北 RC



この一年間、ロータリー第2740地区ポリオプラス委員会の委員長として務めさせていただき、無事に任期を終えることができました。まずは、地区内クラブの皆さま、そして共に活動を支えてくださった委員会メンバーの皆さまに、心より感謝申し上げます。

ポリオ根絶という壮大な目標は、世界中のロータリアンが長年にわたり積み重ねてきた努力の結晶です。私たちの地区でも、例会での啓発、街頭募金、学校や地域団体との連携、そしてクラブ独自の創意工夫による取り組みなど、多くの温かい支援が寄せられました。その一つひとつが、世界の子どもの未来を守る確かな力となっています。

特に今年度は、ポリオの現状を正しく理解し、行動につなげるための学びの場が各クラブで広がりました。「ポリオは過去の病気ではない」「私たちの支援がまだ必要とされている」その認識が地区全体で共有されたことは、大きな成果であったと感じています。

委員長としての私の役割は、皆さまの情熱と行動をつなぎ、後押しすることに過ぎません。実際に力を発揮してくださったのは、各クラブで献身的に活動された皆さまです。この場を借りて、改めて深く敬意を表します。

ポリオ根絶は、ロータリーが世界に誇る最大の奉仕プロジェクトです。そして、私たちの世代が「最後の一押し」を担う可能性を持っています。どうか今後とも、継続的なご支援とご協力をお願い申し上げます。一年間、本当にありがとうございました。皆さまのさらなるご活躍と、次年度ポリオプラス委員会の成功を心より祈念し、退任の挨拶といたします。

資金管理委員会委員長

松田 洋一

諫早北 RC



2025-26年度 石坂ガバナーのもとで資金管理委員会地区委員長を務めさせていただきました。在任中、皆様方には温かいご理解とご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。

当委員会では、ロータリー財団から各クラブに助成された補助金が、各クラブにおいて適正に管理されるよう、財団事業の周知と利用の推進を行いました。

今年度は、地区内23クラブから地区補助金申請書の申し込みがあり、当初の目的が達成できたと思います。次年度も、引き続き資金管理委員長を務めさせていただきます。

1年間、各クラブの会員の皆様、そして事務局の皆様には大変お世話になりました。今後も皆様のご協力のほど、よろしく申し上げます。皆様のクラブが、ますますご繁栄されることをお祈り申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。

米山記念奨学委員会委員長

高谷 信一

長崎出島 RC



米山記念奨学委員会の委員長を退任するにあたり、まずは寄付を頂いてます地区内すべてのロータリアンに感謝申し上げます。

米山記念奨学生に支給する奨学金並びに各種奨学事業にかかわる活動費は、ほぼすべて皆さまの寄付により成り立っております。今後ともご協力のほどなにとぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年に引き続き今年度も地区委員長として米山奨学事業にかかわってまいりました。優秀な奨学生、米山カウンセラーを始め、出前卓話で伺った各ロータリークラブの方々と交流できる機会をととても楽しませていただき

ました。

その一方、面接選考会を始め、お世話クラブの調整等、委員長としての職務の大変さやその責任の重さを身に染みて痛感いたしました。

個々の地区行事については2年目ということで、ある程度理解しているつもりのところ、その点において油断が生じた結果、何かと準備不足な点が多々ありましたこと、地区委員を始めとする奨学事業にかかわる方々に迷惑をかけてしまいました。

幸いなことに次年度も委員長を拝命する予定です。米山記念奨学会がいう「どんな奨学生を採用したかで奨学事業の価値が決まり、さらに意味のあることは、どんな奨学生に育てたか、育ててくれたか」の言葉のもと、今年度の経験と反省点を糧として次年度以降の活動をより良く、また関わる全ての皆さまが活動を楽しめるよう努力してまいります。

最後に米山カウンセラー、奨学生を受け入れていただいたお世話クラブ、地区役員並びに委員会のメンバー、米山記念奨学生、米山学友、指定校の方々、また地区内全てのロータリアン、そしてガバナー事務所の方々に対し、改めて感謝申し上げます私の退任の挨拶とさせていただきます。

文庫通信 397号：国連 (United Nations) とロータリー



- 「創造の場に立ち会う(ロータリアン誌3月号より)」ロータリアン誌編集部 / 友:1995・4月 / 5P
- 「第36回 国際大会議事録 抜粋「リチャード・ウェルズ会長報告より: 国連会議」(RI 非公式 AI 参考訳)」
リチャード・ウェルズ / 1945/R.I./4P
- 「FROM HERE ON!: (国連憲章の条文をロータリアン向けに解説した冊子)(RI 非公式 AI 参考訳)」1945/R.I. / 126P
- 「ロータリーと国際連合」亀井昭伍 / 友:1966・3月 / 2P
- 「UN(国際連合)を如何に變えるべきか」討議
(カルロス P. カムロ・ワン ワイタヤコン殿下・ウオレン R. オースチン・レスター B. ビアソン / 友:1995・3月 / 2P)
- 「国連の新しい方向を探る ～デグヤル前国連事務総長とのインタビュー～(ロータリアン誌3月号より)」
ホルヘ・ベライド / 友:1995・5月 / R.I. / 2P
- 「Voices for PEACE 平和を求める声(THE ROTARIAN 2003年2月号より)」
アンソニー G. グレン / 友:2003・2月 / R.I./6P
- 「国連事務総長がロータリーに感謝(付:国際大会議事録のご挨拶原文(RI 非公式 AI 参考訳))」
潘基文 / 友:2009・8月 / convention proceeding/R.I./7P
- 「国連でのロータリーデー」R.I.WEB サイト

ユーザー名…………rotary

パスワード…………bunko

※半角英字(小文字のみ)

〒105-0013 東京都港区浜松町2丁目7番16号 第3小森谷ビル別館6階

TEL : 03(3433)6456 FAX : 03(3459)7506

*

会長エレクト・次期幹事ラーニングセミナー 報告

次年度地区幹事 米濱誠二（長崎東RC）



2026年4月19日、会長エレクト並びに次期幹事を対象としたラーニングセミナーがサンプリエール長崎にて開催されました。

まず、地区ラーニング委員長である崎永剛パストガバナーより、次年度に向けたクラブ会長としての役割と責務、さらにクラブ活性化に向けた具体的な取り組みについて、分かりやすくご説明いただきました。

続いて、中島健太郎ガバナーエレクトから地区運営方針やクラブの役割について説明があり、地区テーマ「夢を語ろう 感動を分かち合おう」のもと、四つの重点項目を軸とした取り組みが示されました。また、「これまで達成した目標を超えていこう」との言葉は、次年度に向けた大きな指針として心に残るものでした。

さらに、特別講演では第2720地区の硯川昭一パストガバナー（熊本江南RC）にお越しいただきポール・ハリスの生誕からロータリークラブ誕生までをお聞かせいただき、奉仕の心について改めて考える機会となりました。

会長エレクト並びに次期幹事の皆様におかれましては、真摯に研修に臨まれる姿が大変印象的であり、今後それぞれのクラブを牽引される存在としてのご活躍が期待されます。



本セミナーで共有された学びや想いが各クラブでの実践へとつながり、地区全体のさらなる発展へと広がっていくことを願っております。

参加された皆様へ感謝の意を表します。ありがとうございました。

R L I の卒後研修

第2740地区RLI推進委員長 **山本正樹** (佐賀南RC)

本年度、第2740地区RLI推進委員会の集大成として、4月5日(日)に東彼杵町総合会館にて卒後研修を開催いたしました。

当日は、地区の次代を担うリーダー46名が参加し、これまでの学びを実践へとつなげる重要な機会となりました。

本研修は「学びを行動へ変える」ことを目的に実施しており、ZoomでのパートI～Ⅲを通じて培った理解を、対面での対話と実践により一層深める場として位置付けております。またZoomを通じて画面上でしかお会いしていない2740地区の仲間とリアルで親睦を深めていただきました。

前半では、日本RLIより中村靖治パストガバナーを講師にお迎えし、「ロータリーのルーツと日本史」「基本理念」「これからのロータリー」についてご講義をいただきました。参加者は歴史的背景と理念の本質を再認識するとともに、これからのクラブ運営に求められる視点について多くの示唆を得る機会となりました。

後半では、地区のファシリテーター(FA)5名による実践形式のファシリテーション研修を実施し、参加者同士の対話を通じて主体的な気づきを引き出す場となりました。同時に、FA自身にとっても現場での実践を通じたスキルアップの機会となり、地区全体の人材育成の観点からも大きな成果を得ることができました。

RLIは知識の習得にとどまらず、理念を行動へと結びつけるためのプログラムです。本研修で得た学びを各クラブに持ち帰り、小さな実践を積み重ねていくことが、地区全体の活性化につながるものと確信しております。

ご参加いただいた方々、また運営に携わって下さった皆様、誠にありがとうございました。



国際青少年交換委員会活動報告

～沖縄ツアーを通じて学んだ「平和」と「自ら判断する力」～

国際ロータリー第2740地区
国際青少年交換委員会委員長 徳永隆信 (有田RC)

本年度の国際青少年交換委員会沖縄ツアーでは、地区の交換学生、ROTEX、関係者とともに、これまでのツアーの中でも特に学びの深い時間を共有することができました。

今回のプログラムの中心となったのは、沖縄県糸満市にあるひめゆり平和祈念資料館での平和学習です。

戦争という歴史を学ぶ前に、まず参加者それぞれが「自分の国では戦争をどのように学んできたのか」「平和とは何か」「自分はどのように考えるのか」を整理し、互いに意見を共有する時間を設けました。

そこでは、“良い・悪い”という単純な二元論ではなく、国や文化、歴史的背景によって様々な価値観や捉え方が存在することを理解し合うことから学びをスタートしました。

その後の平和学習では、戦争だけでなく、災害や事故など人災・天災を含め、自分に突然降りかかる困難にどう向き合うのかをテーマにディスカッションを行いました。

「いざという時、人は何を基準に行動するのか。」

それは、その時になって突然身につくものではなく、日頃の経験や知識、そして自ら考える習慣が判断力となって表れる――。

ひめゆり学徒隊の一人ひとりが極限状態の中で、それぞれの判断で生きる道を模索した姿と、現代を生きる私たちが備えるべき“自ら判断する力”が深くシンクロする、非常に印象的な学びとなりました。

この学びは、交換留学期間中だけで終わるものではありません。自国へ帰った後も、それぞれの人生や地域社会の中で活かされ、次の世代へ受け継がれていくべき大切な経験であると感じています。

また、学びだけでなく交流プログラムも充実したものとなりました。

スキューバ体験では、海に馴染みのない内陸部出身の学生も多く、冷たい海に驚きながらもウェットスーツに身を包み、全員が笑顔で挑戦。沖縄ならではの貴重な自然体験に大変好評でした。

おきなわワールドでは、民族衣装の体験や南国ならではの文化に触れ、学生たちは思い思いに写真を撮りながら異文化交流を楽しんでいました。

今年は他地区の交換学生も加わり、国や地区の垣根を越えて交流できたことで、これまで私が経験したツアーの中でも“最高のツアー”と呼べる素晴らしい時間となりました。

この経験を、それぞれが自国へ持ち帰り、そして未来の後進たちへ語り継いでくれることを期待しています。



発行：職業奉仕委員会
2026 年 令和 8 年

12 号

第2740地区 新聞 職業奉仕委員会

ロータリーにおける「職業奉仕」の本質と現代的意義

国際ロータリー第 2800 地区の鈴木一作パストガバナーは、ロータリーの根幹でありながら「最も難しい」とされる「職業奉仕」について、その歴史的背景から現代的な解釈までを明快に説いていただきました。

1. 職業奉仕の原点と「大使」としての自覚

職業奉仕という言葉は、1927 年の国際大会で初めて公式に採用されました。その本質は「仕事の場において、ロータリアンにふさわしい高い倫理基準を実践すること」にあります。

ロータリアンは単に業界から選ばれてクラブに来たのではなく、「ロータリーから各業界へ派遣された大使」であるという逆転の発想を提示します。自らの仕事を通じて業界全体の向上・発展に努めることは、ロータリアンにとって最大の義務であり、奉仕の機会なのです。

2. 概念の広がり：手腕を活かした社会貢献

時代と共に職業奉仕の定義は変容してきました。かつては「本業を通じて良い仕事をする」ことのみが職業奉仕とされ、スキルの無償提供などは社会奉仕に分類されていました。

しかし 1987 年の声明以降、「職業上の手腕（知識・技術・経験）を社会のために役立てること」も職業奉仕に含まれるようになりました。

これにより、職業を活かしたあらゆる社会貢献活動が、職業奉仕の大きな枠組みとして統合されています。

3. 「森」としての職業奉仕とロータリアンの矜持

職業奉仕を一本の木ではなく、職業倫理、天職観、社会貢献といった要素が共存する「一つの大きな森」として捉えるべきだと説かれました。

奉仕を細かく分類することに固執するよりも、職業人としての矜持（プライド）を持ち、あらゆる場面で「命を使い、使命を果たす」ことこそが真のロータリアンの姿です。

奉仕とは単なる「思いやり」に留まらず、自己と社会を成長させる「義務」であり、またロータリー活動を通じ職業人としての力を世のため人のために使うことが、人生を豊かにする最高の喜びなのです。

地区職業奉仕委員 山本 正樹

各クラブの会長・幹事・職業奉仕委員会の方へ例会でこの新聞の紹介をお願いします

職業奉仕 WEB ラーニングご参加頂きありがとうございました。



各月第 3 水曜日に行っていました職業奉仕 WEB ラーニングに多数のご参加ありがとうございました。

今後も「職業奉仕」とは何かを皆さんで考える会を企画してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

規定審議会へ上程する制定案・決議案の募集について

2028年4月に米国イリノイ州シカゴで開催される規定審議会へ向けて、新たな立法案若しくは改正案等があるクラブは、下記の要領によりご報告ください。また、毎年開催される決議審議会の決議案・緊急制定案に対する意見等についても下記要領でお知らせください。(決議案・緊急制定案については、規定審議会の投票サイトで見ることができます。)

なお、決議案・緊急制定案に対する意見については締切り日の関係で、2026年6月15日を目処にご報告ください。立法案についてはRIへの提出期限が2027年3月31日となっておりますので、各クラブで十分に検討のうえ締切り日**2026年7月31日**までにガバナー総合事務所までご報告ください

ガバナー総合事務所 〒856-0832 長崎県大村市本町458-2 中心市街地複合ビル1F
TEL 0957-51-6439 FAX 0957-51-7054 E-mail : ri2740knakashima@octp-net.ne.jp

○決議案とは…

組織規定文書に記載されている事柄の範囲外で、RI理事会またはロータリー財団管理委員会による決定を求めるもの。

1. 提案理由

2. 財政上の影響

3. 提出クラブ名 _____

4. クラブ会長名 _____

○緊急制定案とは…

RI理事会が提案する組織規定文書への変更であり、次回の規定審議会まで待てないと理事会が判断した場合に提案されるもの。

1. 提案理由

2. 財政上の影響

3. 提出クラブ名 _____

4. クラブ会長名 _____

なお、規定審議案については、上記の他に前段として「**立法案の概要**」を記載してください。内容については、規定審議委員会地区代表議員からその内容についてお尋ねすることがあります。

2026年3月会員数・出席報告

グループ	クラブ名	例会数	平均出席率	会員数			当該月			累計	
				7月1日	うち女性	当月末	うち女性	新入	退会		増減
第1グループ	佐賀	4	68.1	73	7	79	8	1	2	-1	6
	小城	4	66.7	28	4	27	4	0	0	0	-1
	牛津	3	62.4	24	0	26	0	0	0	0	2
	多久	4	73.3	31	6	31	6	0	0	0	0
	佐賀大和	4	64.8	22	6	21	6	0	1	-1	-1
	小計		67.1	178	23	184	24	1	3	-2	6
第2グループ	佐賀西	3	90.0	39	4	40	4	0	3	-3	1
	佐賀北	3	56.1	44	3	42	5	0	0	0	-2
	佐賀南	4	67.0	46	6	47	5	0	0	0	1
	神埼	4	71.4	39	4	39	4	0	1	-1	0
	佐賀空港	3	47.0	17	0	17	0	0	0	0	0
	小計		66.3	185	17	185	18	0	4	-4	0
第3グループ	有田	4	76.0	27	2	26	2	0	0	0	-1
	武雄	4	82.8	40	2	44	2	1	1	0	4
	鹿島	4	96.3	25	5	26	5	0	1	-1	1
	嬉野	3	80.0	24	2	24	3	0	0	0	0
	大町	3	70.0	12	0	13	0	0	0	0	1
	太良	4	94.4	9	0	9	0	0	0	0	0
小計		83.3	137	11	142	12	1	2	-1	5	
第4グループ	唐津	5	89.2	55	0	54	2	0	1	-1	-1
	伊万里	3	93.6	25	1	26	1	0	0	0	1
	唐津東	4	77.3	49	2	49	3	0	0	0	0
	唐津西	4	87.5	27	1	29	3	0	0	0	2
	伊万里西	4	82.3	34	5	31	5	0	2	-2	-3
	唐津中央	2	90.3	33	4	36	4	0	0	0	3
	小計		86.7	223	13	225	18	0	3	-3	2
第5グループ	佐世保	4	83.0	81	1	79	2	2	5	-3	-2
	平戸	4	72.7	22	3	23	4	0	0	0	1
	北松浦	5	87.8	25	2	23	2	0	0	0	-2
	佐世保西	3	66.6	22	6	24	6	0	0	0	2
	松浦	4	73.1	25	0	26	0	0	0	0	1
	小計		76.6	175	12	175	14	2	5	-3	1

グループ	クラブ名	例会数	平均出席率	会員数			当該月			累計	
				7月1日	うち女性	当月末	うち女性	新入	退会		増減
第6グループ	佐世保南	3	100.0	60	3	62	3	0	2	-2	2
	佐世保東	3	64.1	25	1	26	1	1	1	0	1
	佐世保北 (衛星クラブ14)	5	95.1	54	6	54	6	1	0	1	0
	佐世保中央	4	89.1	52	2	55	2	0	0	0	3
	佐世保東南	2	64.0	25	0	25	0	0	0	0	0
	HTB佐世保	4	62.5	23	4	22	4	0	0	0	-1
小計		79.1	239	16	244	16	2	3	-1	5	
第7グループ	大村	4	76.2	41	4	39	3	0	1	-1	-2
	島原	4	72.0	24	3	26	3	0	0	0	2
	大村北	4	82.1	26	1	26	1	0	1	-1	0
	島原南	3	57.5	17	2	17	2	0	0	0	0
	大村東	3	75.7	36	7	37	7	0	0	0	1
	小計		72.7	144	17	145	16	0	2	-2	1
第8グループ	諫早	3	67.1	68	0	70	0	0	1	-1	2
	諫早北	3	84.8	74	3	75	3	0	1	-1	1
	諫早西	3	92.3	46	3	41	3	0	0	0	-5
	諫早多良見	4	97.8	24	1	24	2	0	0	0	0
	雲仙 諫早南	2	83.3	12	3	12	3	0	0	0	0
	小計		85.1	224	10	222	11	0	2	-2	-2
第9グループ	長崎	3	85.9	60	2	60	3	0	2	-2	0
	福江	3	56.8	30	0	29	0	0	1	-1	-1
	長崎北東	3	90.0	34	2	32	2	0	2	-2	-2
	福江中央	4	79.4	18	2	18	2	0	0	0	0
	長崎西	4	59.4	33	1	33	1	0	1	-1	0
	小計		74.3	175	7	172	8	0	6	-6	-3
第10グループ	長崎北	4	78.2	67	2	71	3	0	0	0	4
	長崎南	3	72.3	63	2	62	4	1	1	0	-1
	長崎東	3	76.5	39	2	40	2	0	0	0	1
	長崎みなと (衛星クラブ2)	3	83.4	33	7	26	2	0	0	0	-7
	長崎中央	4	88.0	42	1	44	1	0	0	0	2
	長崎出島	3	88.9	69	10	71	10	0	2	-2	2
小計		81.2	313	24	314	22	1	3	-2	1	
54クラブ合計			77.6	1,993	150	2,008	159	7	33	-26	16

*上記の表の新入・退会は当月中の数字で、累計は2025年7月1日から2026年3月末までの増減です。

新会員紹介

私たちの新しい仲間になりました
方々を紹介します。

※氏名の下部は勤務先、役職
※今月号に掲載が間に合わなかった
新会員の方のご紹介は、次号に
掲載させていただきます。



佐賀RC
勝原 啓介 君
(株)JTB
佐賀支店
支店長



武雄RC
古賀 健一郎 君
きばる古賀(株)
代表取締役



佐世保RC
吉岡 賢一郎 君
JR九州ホテルズ
アンドリゾーツ(株)
執行役員 副総支配人



佐世保RC
初瀬 隆太 君
(有)アールテック
代表取締役



佐世保東RC
藤岡 優介 君
eリビング(株)
代表取締役



**佐世保北フレンドシップ
ロータリー衛星クラブ**
毛利 孝介 君
G F C (Good Fitness Club)
代表



長崎南RC
宮原 由季 君
長星安全産業(株)
代表取締役

寄付者紹介 ご厚意に深く感謝申し上げます。認証者の方を記載いたします。

※ ロータリー財団 ※

種 類	氏 名	クラブ名
マルチプル・ ポール・ハリス・ フェロー	副島 昭弘	武雄RC
	新納 英明	武雄RC
	野中 績宏	武雄RC
	坂本 慎一郎	唐津東RC
	辻本 善樹	諫早西RC
	山口 大司	諫早西RC
	山田 晃	長崎南RC
ポール・ハリス・フェロー	松尾 啓一	佐世保中央RC
	牟田 久美子	佐世保中央RC
	古賀 勝	佐世保中央RC
	古賀 友里恵	佐世保中央RC
ポリオ プラス	作元 誠司	佐世保南RC

※ 米山記念奨学会 ※

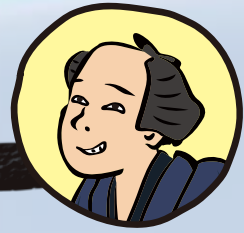
種 類	氏 名	クラブ名
米山功労者メジャードナー	朝永 春郎	松浦RC
米山功労者 マルチプル	福田 英彦	佐世保中央RC
	古川 直記	佐世保中央RC
	橋口 佳周	佐世保中央RC
	前田 眞澄	佐世保中央RC
	山口 大司	諫早西RC
米山功労者	山崎 信二	唐津RC

米山功労クラブ		長崎南RC
---------	--	-------

ポリオ・ワンコインBOX報告

今月分BOX金額	301,219円
累計金額	2,579,990円

からつ勘右衛 (かね)話



【第12話 カラス売り】

今日は、かねどんの、カラスば売らした話ば、しゅうだい。

勘右衛は自分の畑に悪さをするカラスに困っておりました。そこで、米屋町の古屋酒屋で酒粕を買い、それを畑にまいて酔っ払ってしまったカラスを全部捕まえてしまいました。

次に勘右衛は八百屋町に行き鴨を1羽買い求めました。そして、カラスの入っている俵と鴨1羽を天秤棒にかけ、町へふれ売りに出かけました。

「カラスはいらんか！カラスはいらんか！カラス1羽5文」と言って町中をふれ歩く勘右衛を見て、町の人達は「勘右衛はおかしかぞ。鴨をカラスと言って売り歩いとる。鴨1羽5文なら安か。買わんこて」と思い、勘右衛を呼び止め「ここに5文置く、

1羽くれんけ」と言うと、勘右衛はやおら俵からカラスを1羽取り出して客に渡します。

客は驚いて「いや、俺が買うたつは、こんカラスじゃなか。天秤の先に吊るしてあるカラスのほうたい」と文句を言いました。すると勘右衛は「こりゃ鴨ばい。カラスじゃなか」と言うより早く、さっさと荷を担いでその町を抜けて行きました。

後に残された客はカラスを下げたまま、ポカンとしていました。こうして勘右衛は俵一杯のカラスを全部売り尽くしましたとさ。

今日の話は、こいばっかい。

(富岡行昌 著 『かねばなし』より)



編集後記

月信委員会のメンバーは、聖職者から法曹、医療、クリエイティブ、経済界まで、驚くほど多彩な顔ぶれが集結しています。議論の場は常に活気にあふれ、一線で活躍するプロフェッショナルとしての真摯な眼差しが、本誌の質を支えてきました。この優秀なメンバーの並々ならぬ尽力により、一字一句にこだわり抜き、無事に第12号(6月)を送り出すことができました。

創刊から今日まで、ページをめくってくださった読者の皆様に、心より深く感謝申し上げます。

月信委員会 副編集長 松尾圭祐

国際ロータリー2740地区
ガバナー事務所

〒847-0012 佐賀県唐津市大名小路1-54 唐津商工会館地下1階
TEL 0955 (53) 9061 FAX 0955 (53) 9062
E-mail : ri2740tsuji@vc.people-i.ne.jp

WEBサイト▶

